

米子市のお財布事情

～令和2年度決算の状況～

令和2年度決算の算定が終わりましたのでお知らせします。

一般会計の実質収支は10億9,286万円の黒字となり、各財政指数も良化してきています。今後も限られた財源を大切に使いながら、「住んで楽しいまちづくり」に取り組みます。

■問い合わせ 財政課 (☎23-5322、FAX23-5390)

一般会計 歳入

令和元年度より195億1,707万円増
感染症により市税減少、国庫支出金は大幅増

新型コロナウイルス感染症の影響で、固定資産税の徴収猶予を行ったことや入湯税の減少により、市税全体で令和元年度に比べ4億8,133万円減少しました。また、国庫支出金は特別定額給付金事業などの実施により、令和元年度に比べ170億7,267万円の大幅な増加となりました。

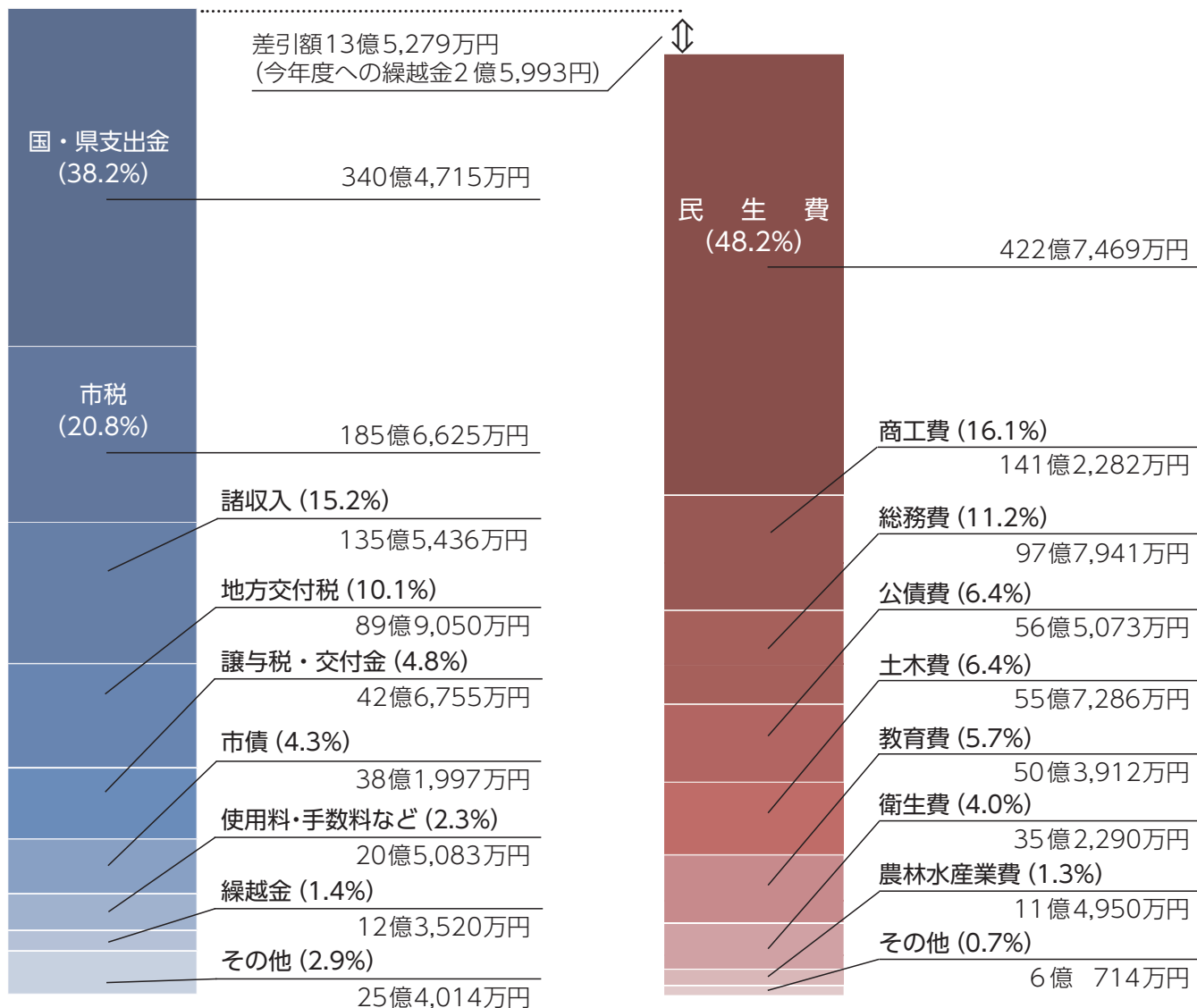
一般会計 歳出

令和元年度より193億9,948万円の増
定額給付金により民生費が増加

新型コロナウイルス感染症対策として、特別定額給付金事業等を行なったことにより、民生費全体で155億2,305万円の増となりました。

歳入合計 **890億7,196万円**

歳出合計 **877億1,917万円**



※数値は、項目ごとに四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。



市債（市の借金）

市債とは、市が借りるローンのようなものです。学校の改修等、多額の費用がかかる際に市債を利用して財源を確保します。また、学校などは何十年にも渡って使うものなので、市債を利用して長期的に返済し、一つの世代に金銭的負担を偏らせないようにする意味合いもあります。

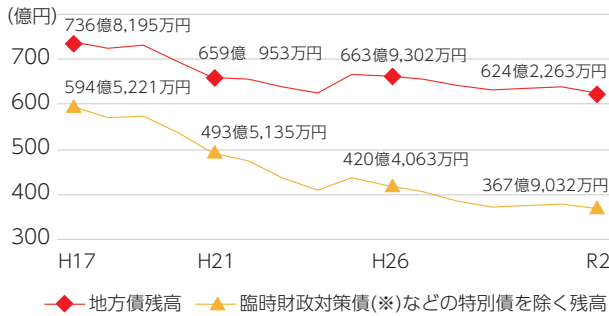
市民1人あたりに換算すると…
 借金 42万7,602円（前年度比△9,459円）
 貯金 6万 1円（前年度比+3,118円）



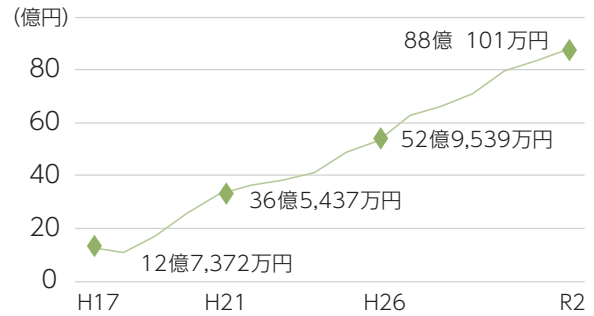
基金（市の貯金）

災害時などの突発的な費用に備えるために、基金を積み立てる必要があります。基金には、突発的な支出などに備える財政調整基金や、市債の返済に充てるための減債基金などの種類があります。米子市の基金は毎年増加しています。

市債残高の推移（一般会計）



基金残高の推移



※臨時財政対策債…地方交付税の不足分をまかなうため、地方交付税の代わりとして自治体が借りることのできる地方債

特別会計 特定の事業では、一般会計と区別して特別会計を設置しています。(△はマイナス)

会計名	歳入決算額 (A)	歳出決算額 (B)	対前年度比	
			対前年度比	収支差引額 (A - B)
国民健康保険事業	138億7,559万円	137億1,884万円	△ 2.6%	1億5,674万円
土地取得事業	4,813万円	4,813万円	△ 0.4%	0円
駐車場事業	6,991万円	6億2,167万円	△ 13.3%	△ 5億5,175万円
市営墓地事業	4,039万円	1,724万円	2.0%	2,315万円
介護保険事業	162億1,538万円	146億7,894万円	0.8%	15億3,644万円
後期高齢者医療	18億7,795万円	18億7,279万円	1.2%	516万円
米子インター周辺工業用地整備事業	7億1,677万円	7億1,677万円	107.1%	0円

企業会計

民間企業と同じような会計基準に基づき、現金の収支や資産の運用などを管理する会計方式です。

- ・収益的収支…水道水の供給や汚水処理などの営業活動による収支
- ・資本的収支…将来に備えて行なう建設改良などの収支

上水道事業

老朽管の更新、耐震型配水管の布設など

収益的収支	
収益的収入	37億9,408万円
収益的支出	32億6,334万円
差引額	5億3,074万円
資本的収支	
資本的収入	10億5,830万円
資本的支出	23億3,729万円
差引額	△ 12億7,899万円

工業用水道事業

取水・送配水設備の保守管理など

収益的収支	
収益的収入	197万円
収益的支出	1,096万円
差引額	△ 899万円
資本的収支	
資本的収入	0万円
資本的支出	0万円
差引額	0万円

下水道事業

公共下水道管きよの整備など

収益的収支	
収益的収入	57億4,771万円
収益的支出	52億9,016万円
差引額	4億5,755万円
資本的収支	
資本的収入	49億2,000万円
資本的支出	66億9,020万円
差引額	△ 17億7,020万円

財政健全化比率は健全な結果に

地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、4つの健全化判断比率と資金不足比率を公表します。これらの比率は、自治体の財政悪化の兆候を見つけて、早めに財政状況を改善させることにより財政破綻を未然に防ぐことを目的として、国が法律で定めたものです。

健全化判断比率

健全化判断比率とは、標準財政規模（自治体が行政サービスを提供するために必要な一般財源をどの程度持っているかを表す指標）に対する赤字や借入金返済額などの割合で自治体の財政状況の健全性を示す比率です。令和2年度の健全化判断比率は各比率とも健全な結果になりました。

指標・説明	令和2年度	令和元年度	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率 標準財政規模に対する一般会計などの赤字の割合	赤字なし	赤字なし	11.71%以上	20.0%以上
連結実質赤字比率 標準財政規模に対する全会計の赤字の割合	赤字なし	赤字なし	16.71%以上	30.00%以上
実質公債費比率 標準財政規模に対する1年間で支払った借入金返済額などの割合	8.4%	9.1%	25.0%以上	35.0%以上
将来負担比率 標準財政規模に対する将来市が支払う借入金返済額などの割合	79.4%	94.0%	350.0%以上	—

資金不足比率

資金不足比率とは、公営企業ごとの事業規模に対する資金不足額の割合です。令和2年度はすべての公営企業会計において資金不足はありませんでした。

公営企業会計名	令和2年度	経営健全化基準
水道事業会計	資金不足なし	20.0%以上
工業用水道事業会計		
下水道事業会計		
米子インター周辺工業用地整備事業特別会計		

米子市の財政指数

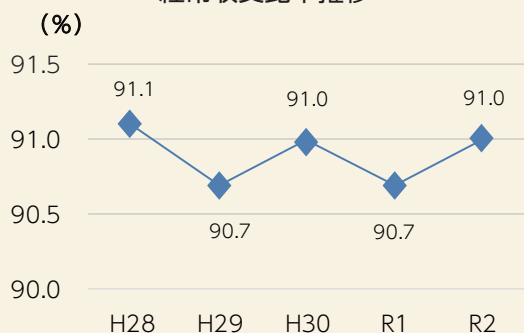
経常収支比率はお金が入件費や借金の返済などの義務的な経費にどれだけ充てられているかを示す割合で、比率が低いほど施策に使える財源が多いといえます。財政力指数は自治体の財政力を示す指数で、高いほど財源に余裕があるといえます。人口1,000人当たりの職員数は、類似団体（※）と比較しても少ないことがわかります。

※類似団体…全国の市町村を人口と産業構造の2要素の組み合わせによって類型ごとに分類したもの。今回の比較では、その中からさらに面積が類似する15団体を選びました。

類似団体との比較

令和2年度財政指数	米子市	類似団体
経常収支比率 (%)	91.0	95.1
財政力指数	0.68	0.75
職員数 (人口1,000人あたり)	5.53	5.57

経常収支比率推移



財政力指数推移

